

第2回京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議 会議録

- 1 会 議 名 第2回京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議
- 2 開 催 日 時 令和7年11月25日（火）午後1時30分～午後3時30分
- 3 開 催 場 所 峰山総合福祉センター 会議室1・2
- 4 出 席 者
 - （1）委 員
藤井美枝子、山添博史、志水美咲、山副祐子、田中智子、松岡豊美、大庭哲治、山本隆明
欠席2人（川口勝彦、今井みどり）
 - （2）事務局
市長 中山泰、市長公室長 引野雅文、市長公室政策調整監 川口誠彦
総務部長 中西俊彦、建設部長 中川正明、都市計画・建築住宅課長 井上浩一
都市・地域拠点整備推進室長 安田悦雄、同室 橋智子、同室 石井真澄
こども部長 蒲田有希子、こども未来課長 金子隆行、子育て支援課長 野村 亜紀子
教育次長 川村義輝、生涯学習課長 松本優、市立図書館長 亀田真奈美
- 6 次 第
 - （1）開会
 - （2）委員長挨拶
 - （3）市長挨拶
 - （4）検討協議依頼
 - （5）議事
 - ア 都市拠点公共施設整備に関する市民広聴会の開催結果について
 - イ 都市拠点公共施設整備の望ましいあり方について
 - ウ その他
 - （6）閉会
- 7 公開又は非公開の別 公開
- 8 傍聴者 3人、報道機関 2社
- 9 要旨（議事経緯）

開会

<事務局>

定刻となりましたので、ただ今から、第2回京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議を開会します。

委員の皆様におかれましては、公私とも大変お忙しい中、ご出席くださいます、誠にありがとうございます。

私は、本日議事に入りますまでの間、進行をさせていただきます、京丹後市建設部の中川でございます。どうぞよろしくお願い申し上げます。

まず、事前にお配りし、ご持参いただきました資料の確認をさせていただきます。

- 「次第」
- 資料 1 「検討会議委員名簿」
- 資料 2 「検討会議設置要綱」
- 資料 3 「検討協議依頼書」
- 資料 4 「市民広聴会開催結果（概要）」
- 資料 5 「(市民広聴会資料) 都市拠点公共施設整備事業の概要」
- 資料 6 「議会審議等の意見・論点及び検討の方向性」
- 参考資料 1 「検討参考資料」

配布資料の揃っていない方はいらっしゃいませんか。

さて、本検討会議につきましては、京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議設置要綱第 6 条第 2 項の規定により、検討会議は委員定数の過半数が出席しなければ開会することができないと定められています。

本日は、委員定数 10 人のうち 8 人にご出席をいただいておりますので、本検討会議の開会の要件を満たしておりますことをご報告申し上げます。

また、本日の会議録については、設置要綱第 8 条に基づき、大庭（おおば）委員長及び参加者名簿の先頭行にあたります藤井副委員長にご確認・ご署名いただいたうえで、公開させていただきます。

それでは、検討会議の開会にあたりまして、大庭委員長から、ご挨拶を頂戴したく存じます。

<委員長>

皆さんこんにちは。大庭でございます。

本日は今年度 2 回目の検討会議ということで、前回の検討会議は合同会議という形で、議会審議結果の報告を中心に意見交換をおこないましたが、本日の検討会議においては、議会でのご意見、また、後ほどご報告いただきます市民広聴会でのご意見なども踏まえながら、都市拠点公共施設整備事業の望ましいあり方について、検討ができればと考えております。

人口減少、少子高齢化という全国の自治体が直面する大きな課題に対して、中長期的な視点でどのようなまちづくりを進めていくべきか、本事業については京丹後市の今後のまちづくりを考えるうえで、非常に重要な役割を担っている事業であると認識しております。

議会における審議内容をはじめ、多様なご意見があったかと存じますので、改めて様々な観点で望ましいあり方を検討していく必要がございますが、多極ネットワーク型のまちづくり、都市拠点構想の実現に向けては、やはり基本計画としてまとめてきたような形が、未来への投資という意味では有効ではないかと考えた時に、改めて都市拠点公共施設整備の意義であったり、期待される効果、また、基本計画だけでは伝えきれていない、盛り込めていない投資効果や付加価値といった部分についても、様々な観点で委員の皆様からご意見をいただければと考えています。

限られた時間の中ではございますが、忌憚のない御意見を賜りますようお願い申し上げ、挨拶とさせていただきます。

本日は、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

大庭委員長ありがとうございました。

つづきまして、中山市長よりご挨拶申し上げます。

<市長>

こんにちは。ご紹介いただきました、中山でございます。一言ご挨拶を申し上げます。

本日は、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議ということで、お忙しい中、ご出席賜りまして、本当にありがとうございます。また、皆様それぞれの分野で、日頃から大変お世話になっているところでございまして、重ねて御礼申し上げます。

さて、都市拠点の整備につきましては、委員長からのお話にもありましたとおり、先般、10月の各審議会合同の会議でもご報告させていただきましたように、議会の方で白熱の議論をいただいたところであるわけですが、結果としては、我々としては残念な結果になったということでありまして、改めてその点について、事務方、行政サイドの力不足も含めて、申し訳なく思っております。

議会の中でも色々なご議論があり、さらには都市拠点の施設を作っていくこと、そして図書館や子育て支援施設の整備をしていくこと自体については、改めてご共有も賜ったかなというふうに我々としては受け止めているところでございます。

その上で、議会でいただいた様々なご意見をしっかりと受け止めながら、同時にこれを糧として、より望ましい形でこの都市拠点の整備にどう臨んでいくかということが今問われております。

そして、それをスタートしていくため、直後から議会に対して、3つの関連する審議会等の開催経費の予算も提案し、他の審議会も含めてスタートしていただいているところでございます。

併せて、先般は市民広聴会をしっかりと開いていこうということで、各6町それぞれで、広聴会の日程を持ちまして、様々なご意見を賜ったところでございまして、広聴会でのご意見なども本日はご報告させていただきたいと思います。

そういったことも踏まえて、改めて、この都市拠点整備をより望ましい形でしっかりと進めてまいりたいと思っておりますので、改めてのご審議をお願いいたします。

委員長もおっしゃっておられましたように、京丹後のみんなにとって、とても大切な機能をどう整備していくかということで、私達もしっかりと受け止め直しているところでございますので、そういった展望も共有しながら、ご審議賜ればなというふうに思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

<事務局>

つづきまして、次第の4 検討協議依頼に移らせていただきます。

京丹後市都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議設置要綱第2条に基づき、検討協議を依頼する内容を記載した検討協議依頼書を中山市長から大庭委員長に提出させていただきます。

提出にあたって、中山市長から依頼内容について説明させていただきます。

～依頼書の手交～

中山市長につきましては、どうしても外すことのできない別件の公務がございまして、ここで退出させていただきます。何卒ご容赦くださいますようお願いいたします。

さて、ここからは、議事に入らせていただきますので、大庭委員長に議長をお願いします。

<委員長>

それでは、ここから議長を務めさせていただきます。

委員の皆様方には、議事のスムーズな進行にご協力いただきますようよろしくお願いいたします。

なお、ご発言の際は、挙手いただき、議長指名の後にマイクでご発言いただきますようお願いいたします。

お手元の次第に従いまして、進めさせていただきます。

まず、議題の（１）「都市拠点公共施設整備に関する市民広聴会の開催結果について」でございます。

それでは、事務局から説明願います。

議事

<事務局>

資料４と資料６について説明させていただきます。

まず資料４をご覧ください。市民広聴会開催結果として、先だって１０月１９日から２５日の間、市内６会場で開催いたしました市民広聴会の開催結果について、概要をご説明いたします。

～資料４に基づき事務局から説明～

続きまして、資料６をご覧ください。議会審議・市民広聴会における意見・論点及び検討の方向性について、ご説明いたします。

～資料６に基づき事務局から説明～

<委員長>

事務局からの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

<委員>

市民広聴会では、大変貴重なご意見をいただいたと思っております。市としては、市民広聴会の場でこういった説明をされたのか、教えていただけますでしょうか。

<事務局>

説明は割愛させていただきましたが、資料５としてお配りしているような資料に基づき、事業

の概要、趣旨をご説明させていただいた上で、ご意見を聞かせていただきました。

市民広聴会やこういった検討会等で頂戴したご意見も踏まえながら、検討を進めてまいりたいと考えております。

<委員>

市民広聴会を実施いただき、それぞれの会場で貴重なご意見をいただいたようですが、おおむね賛成的な観点からのご意見が多かったのか、反対的な観点からのご意見が多かったのかなど、その辺りの感触を、率直に知ればと思うのですがいかがでしょうか。

<事務局>

6会場で開催させていただきまして、感触も含めてですが、反対のご意見の方をたくさんいただきました。

特に、久美浜会場では、かみ砕いた言い方をすれば、峰山ばかりに集中といいますか、お金を使っていて、もっと久美浜の方にもお金使ってほしいといった意見ですとか、参加者の方もおおむね50代以上の男性の方が多いような状況かなと思います。

丹後町や弥栄町、網野町も似たような傾向はありました。

峰山町については、まあ半々程度のイメージだったかなというふうに思っております。

私達としましては、最初にご質問を受けて、その後はグループに分かれて意見を言っていたくような場を作ろうと考えておりましたが、市長が出席しているということもあって、やはり市長に対してご質問されている参加者の方が多かったようなこともあり、小グループに分かれてご意見をお聞きする時間というのがなかなか設けられなかったような状況でした。

<委員長>

非常に重要な状況についてのご説明だったと思います。

とはいえ、感触として反対意見が多かったからといって、必ずしも参加者全員が反対しているわけでは私はないと思っております。今回お越しいただいた方々に、まずは概要を丁寧に説明して正しく理解していただくことが重要です。その上で、当然内容を知ったからこそ生じる色々な不安や懸念点が浮かんでくると思います。それが率直な意見として示されたのだと思います。

今後は、そうした懸念点がどのように解消されていくかですとか、あるいはさらなる追加的な情報提供ですとか、皆様方からのこの施設の重要性や価値の共有と言いますか、そのあたりが進んでくれば、また状況も変わるような気がします。

やはり今は、まずはその懸念点や心配点という部分を一つ一つしっかり払拭をしていくことが、何より大事だろうと感じながら、今回の市民広聴会の状況を伺いました。

<委員>

自分の団体に関わってですが、盲導犬を連れた方や障害のある方、高齢者など様々な人が気楽に行ける場所が必要ですよというご意見は、これはどの地域で、障害当事者なのか一般の方なのかということは分かりますか。

<委員>

広聴会に参加していたので、私わかります。

これは久美浜会場です。子育て関連のサロンをされたり、それから障害に関わることに一生懸命取り組んでおられる方からのご意見でした。

私も、なかなか皆さんのお話を聞く機会もないので、どんな方がおられて、どんなご意見があるのかと思って、広聴会は丹後町、久美浜町と行かせていただきました。

その中で久美浜会場では、賛成の意見がほぼほぼ言いにくい雰囲気がありました。その中で、その方は久美浜町民全員が反対しているわけではありませんという勇気ある発言をされていました。

<委員長>

市民広聴会に関しましては、反対の方が来られることが一般的だと思います。

他自治体においてもそうですが、パブリックコメントですとか、広聴会のような場のように、何かに対してものを申したい時は、基本的には懸念点や反対ということをきちんと表明したいということで発言される、あるいは意見を述べられるケースが多い傾向にあります。一方で、賛成の方はわざわざ来てまで、あるいは文字にしてまで賛成ですという意志表示をされるというケースは、なかなか少ないのではないかなと思います。

そういったことも含み置きながら、もちろん反対のご意見はしっかりと受け止めながらも、その意見に対して私達がどのように理解し対応できるか、あるいは、こういうことですよというご説明をさせていただくか、その辺りが必要になってくるだろうと思いながら聞かせていただきました。

資料 4、あるいは資料 6 の方でも結構でございますが、いかがでしょうか。

特にこの検討会議においては、例えば資料 6 につきましては、先ほど事務局のご説明にもありましたとおり、色々な論点がありますが、例えば、立地、規模、機能の妥当性への疑問に対してですとか、あるいは、整備手法、運営手法のところで、この検討会議で議論したような内容が論点として含まれておりますので、できればそのあたりを中心に、お気づきの点があればご意見いただければと思います。

他の会議体は会議体で、それぞれご専門の分野を中心的に議論いただくことになろうかと存じますので、そこはそれぞれの審議会にお任せして、本検討会議におきましては、今申し上げましたような論点を中心に検討できればと思います。いかがでしょうか。

ご検討、お考えをまとめていただいている間に、少し私の方から意見と質問をよろしいでしょうか。

資料 6 に記載されている、立地・規模・機能の妥当性への疑問として、商業施設と隣接することで地域経済の活性化に寄与する、あるいは、整備場所は都市拠点の中に必ずしもこだわらなくていいといったご意見をいただいています。

私としては、やはりこの都市の拠点を考える上では、都市機能を誘導する中心エリアにこの公共施設を整備する必要があるだろうと認識をしております。

理由としては、やはりその中心部におきまして、この公共施設というもののニーズをどれだけ拾えるかと考えたときに、例えば生活する中で利用する施設、あるいはコンビニやスーパーですとか、様々な施設がありますが、それぞれの施設はそれぞれの施設で当然その需要というものをき

ちんと捉えて、おおむねこれぐらいの利用者が見込めるだろうというところで立地をしています。

まさにこの都市拠点の公共施設についても、私達が検討している公共サービスが、どのような範囲で提供できるかと考えた時に、やはり拠点にきちんと立地をして、より広い範囲からそのサービスを享受いただくというようなことが必要だろうと思っております。

さらには、すでに商業施設などもすでに立地をしているという状況の中で、相互の相乗効果と言いますか、仮に子育て支援や図書館といったサービスを享受しなくとも、一方で買い物をしたり、単にその公共施設のためだけに行くというようなことではなくて、中心部に行けば1日過ごすことができるとか、そういったような多様な生活スタイルの提供にも寄与するのではないかとといったような視点から、立地や機能といったものが非常に重要だと考えているところです。

少し情報提供としまして、参考になりそうな論文について口頭でご紹介したいと思います、日本建築学会というところで論文集がございまして、そこで2023年にこういったような内容の論文が発表されていまして。

複合図書館の立地特性と利用率との関係に関する一考察ということで、私もちょっと存じている先生、研究者の方、4名の方の連名での論文です。どういった内容かと申しますと、既に立地している全国の公共図書館ですね。北海道から沖縄まで約70数館を研究対象にしまして、それぞれの図書館がどのような立地の特性をしているのかですとか、どういう複合機能を持っているのかですとか、あるいは、どんな整備計画のもとで整備されたのか、そのようなことを整理されている論文です。

最後の結論を見ますと、色々と知見が得られておりまして、近年の公共図書館では、複合化した図書館の整備が増加をしているということ、それから、今後も複合化を伴った整備が増加するであろうということ、それから駅、市役所、学校などからの距離が800メートル以内で整備されている事例が多いということ、これは利便性の高いところに立地する傾向にあるというふうに言い換えられるのではないかと思います。

さらに、施設間の相乗効果を狙って、商業施設との複合ですとか、近接が多いということも記載がされています。

併せて、用途地域も商業地域に立地する事例が多く、一方で、用途白地地域なども見受けられますが、これは例えば市役所といった中心的な公共施設などに近接させたりという形で、そういった用途でも立地しているところはあるということでした。

こういったような状況の中で、例えば整備した図書館周辺の交通量や歩行者の量などを調べると、やはり整備前より整備後の方が増えているというようなこともあり、これは、直接的には図書館や複合的な施設を利用しているかどうかとはまた違いますが、ただ、少なくとも間接的にはその地域を訪れる人が増えているということがデータとして示されていますので、やはり図書館や複合的な機能をどこに整備するかといった時には、中心的な場所に立地をすることをまずは検討することが、前提になってくるのではないかと改めて申し上げたいところです。

では、京丹後においてはどうかと考えた時にも、もちろん地域性はございますが、京丹後市の中心性について考えた時には、やはり全国の動向に一番近いような形で考えていく必要があるかというふうに思っております。

他いかがでしょうか。

<委員>

私も計画されている場所が最適だと思っているんですが、市民広聴会で配布された事業概要説明資料において、整備予定地のページには、「提案時の当初想定です。市民・議会等の意見も踏まえ他の候補地も含めて今後検討します。」と記載されていますが、市としてはそういう認識ということでしょうか。

<事務局>

記載しておりますとおり、計画地域につきましては、提案時の想定としてお示しをしているものであり、色々な方のご意見を聞きながら、望ましいあり方を検討していくという考えのもとで、広聴会を開催させていただいております。

<委員>

やはりこの商業施設近くの、提案のあった場所に建設されるのが最適だと私も思います。

相乗効果を狙うということもありますし、市の拠点としてもあそこに建設されるのがベストだなと思っています。

学校の跡地であるとか、子育て支援の施設は身近なところというご意見もあったようですが、やはり複合施設として建てられるのが一番望ましいと思います。

私は、広聴会は網野しか行けなかったのですが、反対の声がものすごく、反対の意見を言われたら拍手が起こるような状況でした。その中で、私はこの商業施設のところに建てるのはいいと思いますと言ったら、もうシーンとなるような雰囲気でした。

その中で感じたことは、やはり京丹後市は 6 つの町が合併しているまちなので、今の若い子どもたちはわかりませんが、やはり我が町、我が村という意識がまだまだ存在するのだなということを感じました。

ですので、市の中のあそこに建つということではなく、峰山ばかりという意見がやはり多いのだなということをととても感じました。

京丹後市は、施設視察に行った海南市と比較すると、人口とか世帯数とか高齢化率とかはとてもよく似ているのですが、面積は京丹後市の 5 分の 1 なんですね。市域の広さという点では、条件が違うなということをととても感じました。

交通網も確かに不便ではありますので、その辺をどう解消していくかということも、大きな問題になってくると思います。

今回の否決を受けて、それまでに議会の傍聴などにも行くなかで、本当にどんな良い案であっても、議会を経なければ実現しないんだなという、当たり前のことですが、ひしひしと感じました。

やはり議会で否決されたその反対の意見の中の大勢を占める財政的な懸念であるとか、そういったことをいかにクリアしていくかが課題だということを感じました。

<委員長>

非常に貴重なご意見をいただいたかなと思います。

皆様ご承知のとおり、この京丹後市は合併をしたまちだということで、私もいくつかの京都府下で合併した都市の都市計画あるいは交通計画に今も関わらせていただいておりますが、やはりそういうような傾向があるということは間違いないと思います。

皆様住まれている地域を非常に重要視します。それはもちろん当たり前のことですが、一方で、その市が何故合併したのかと考えたときに、みんなで手を取り合わないと言っていけないというような、おそらく危機感から合併をしたのではないかと想像します。

であるからこそ、それぞれの町が、どのように役割分担をし、協力をしながら、今後、未来を築いていくかということが非常に重要な視点だと思います。

もちろん、自分たちの住んでいる場所に便利な施設ができることに関しては、多くの方が賛成されるでしょう。しかし、もう一步踏み込んで、もう少し広域的な視点、あるいは中長期的な視点で見た時に、それが本当に望ましいのかを改めて問い直し、自分なりに確認していくことも必要ではないでしょうか。

こういった公共施設は、やはり利用していただかないと意味がないですし、当然税金を使いますので、多くの人に喜んでいただけて、将来的に役に立つ、あるいは地域にとってプラスとなる施設を整備するためには、やはり相応の投資をし、そのサービスを市の隅々までどのように行き渡らせるのかを考える必要があります。その際、需要の範囲や、どのような人々がそのサービスを享受できるのかという点が、極めて重要になります。

先ほど委員がおっしゃられたように、施設へのアクセスは非常に重要で、既に皆様ご承知のとおり、高速道路の整備が進み、近くにインターチェンジができることは、大きなメリットの一つです。

併せて、京都丹後鉄道やバスをはじめとする地域の公共交通、さらには関連するさまざまなサービスをしっかりと充実させていくことが伴ってこそ、この施設の機能や価値が京丹後市全体に行き渡るのだと思います。アクセスについてはセットで考えていく必要があるだろうと思っております。

公共施設そのものに関する議論も、もちろん大事ですが、それと関連する周辺の政策や取り組みなども併せて、きちっと議論をしていきながら、最終的にはこの京丹後市にとって最も望ましい形で物事が進めるようにしていく必要があると考えています。

海南市は類似事例として非常に興味深い事例であると思っています。確かに京丹後市のように広域ではないということは違う点ではございますが、目指す施設機能含めてその他に関しては非常に近い類似点を持っておりますので、ぜひ一度実際に現地を訪れてその環境を自分の目で見ていただければと思いますし、もし京丹後市にあったらということを想像しながら考えていただくと、また違ってくるのではないかと考えたところでございます。

<委員>

まず議会の方で、この３回の開催経費をお認めいただいたことに関しては、大変ありがたく思っています。お認めいただけたということは、まちの未来を考えていただいているということで、

審議会等での前向きな意見を総じて、最終的には議会でご議論いただいて、色々ある課題も解決して、前に私は進めてほしいと思っています。

論点 3 の立地に関する意見として、私は論外だと思うのですが、長岡小学校や旧丹波小学校のところなんかの話も出ますが、旧丹波小学校には学童へ送り迎えしていますが、カーブでとても危険なところですよ。

私は、改めて土地は色々な部分で探しても、複数の条件をクリアするところとなると、ここしか最終的にはないのではないかなと思います。

そこに高速道路が下りてくることがまずもって大事なところなんだろうと思いますし、都市拠点、都市拠点と言いますが、そこに一つ複合施設が新たにできるということは、やはりエネルギーが生まれてくると思います。未来への投資と言いますが、やはり経済が動いていくことと、人の交流が起きることによって、まち全体として動きが出てくることになると思います。

市民広聴会でも、皆さんからの反対の意見として、公平な発展、均衡ある発展だと言われます。

今日までに築いてこられた先輩方にとすると、先ほど言われた想いはあるかもしれませんが、でも丹後町のスーパーも地元の方が行かれないので撤退していきましょ、中心部は今どんどん新興住宅地になっていますが、そこに若い子育て世代の方たちが集まっているのは確かです。

マインのところは、今の時点でも夕方には若い人たちだけではなく、お年寄りもバス停のところはいっぱいです。それだけ行き交う人たちがあそこに集中しているのは間違いのない現実です。

スムーズには議会を通りませんでしたけど、改めて皆さんが自分たちの京丹後市を考えるうえで、すごいきっかけにはなったと思います。

峰山町でさえも、自分の近くから離れることに対しての恐怖感といいますか、そういったものから、都市拠点に反対だと言われることありました。

地元の地域においても、そこはそこで文化やコアなものがあるので、それに関しては地元民で残そうと思って色々な手段や取組を行い続けています。

そこに住んでいる人たちには、当然地元の誇りもありますし、お祭りもあります。それを維持しようと地域に住む人たちが努力することは、それはそれで大切なことだと思います。

一方で、この人口減少をきちっと見据えた上で対策を今取らないと、本当に取り残されていくといえますか、もう間に合わないことになると思います。それは、私たちが未来の子孫たちが地元に戻ってきてもらえるように、それから移住もしてきてもらえるように、地元の良さに尽力してくれている人たちに対して、この事業はやらなければいけないことだと思います。

私は、本当に色々な場所を検討されたんだと思います。浸水地域であつたりとか、交通量だとか駐車場のところは、本当に真剣になって探していただいたと思います。

市の方がやっていただいて、そこに納得できるものを建てていただくのが、私はもう一番、少しでも早くこの京丹後市を維持していく方法ではないかなと思います。

<委員長>

ありがとうございます。事務局から何かありますでしょうか。もしなければ、私の方から少しだけ述べさせていただきます。

非常に重要なご指摘でして、まさにこの人口減少下において、もちろん人口減少を食い止めて、

逆転のトレンドを生み出したいところですが、現実にはなかなか厳しい状況にあります。だからこそ、地域としては、どのようにして人口減少を少しでも食い止め、地域の魅力を維持し、あるいは、より新しい価値を作っていくのかを真剣に考える必要がある時においては、やはり動かないと、この状況に対して抗うことができないだろうと思っています。

周辺自治体を見ていただければと思いますが、福知山市や綾部市を見ても、駅前に様々な施設を今誘導しています。これは、やはりその中心部の人が集まるエリアをいかに魅力的なエリアとし、利便性、滞在性、快適性を高め、少しでも多くの方々にそこに来ていただき、1日を過ごしていただけるかというような流れになっています。

そういった状況のなかで、京丹後市はどうなのかと見ていただいた時に、皆さんはどう感じられるかということだと思います。

このままで十分だと思われるのであれば、それはそれで結構かと思いますが、いや、このままではいけないと少しでも思われる方がいるならば、やはり何かしらの対応をしていく必要があるだろうと思っています。

そこで問われるのが、具体的に「どこで」「何を」行うのかということだと思います。

その際に、この都市拠点公共施設整備というものが、やはり多くの方々にとってメリットをもたらすような施設として整備をすることができるのであれば、やはり多くの人が集まり、利用しやすい場所に機能を集約していくことが重要だと思いますし、その実現に向けて努力することが大切だと考えています。

今回、図書館機能や子育て支援機能、あるいはその他の機能など、複合的に考えられるところが非常に大きな利点だと思いますし、特徴だと思います。

それはなぜかということ、いろんな方々に訪れるきっかけを生み出すことができることと、また併せて、周辺には商業施設などがあるということで、やはり生活とうまくなじむような形でサービスを楽しむことができるということが、非常に大きな利点だと思いますので、そういったような日々の暮らしにどのようにうまくフィットするかという視点から、考えていただければと思います。

子育て支援機能であれば子育て世代の方々だけしか、図書館機能であれば一部の図書館利用者しか利用しないのではないかと思うかもしれませんが、昨今の図書館ですとか、子育て支援の機能というのは、目を見張るくらい昔とは違ったような機能が複合的にどんどん追加されています。

図書館だけに限っても、例えば昔は書籍があって、借りてその場で静かに読んでというのが当たり前でしたが、昨今の図書館の中には、騒いでもいいような図書館もあつたりですとか、あるいは電子書籍なども充実していたりですとか、あるいは図書に関連するような様々なサービスとして、子どもたちの興味関心に対して応えるような取り組みをするですとか、知的好奇心を刺激するイベントをするですとか、市民の関心を高めるための多様な工夫が行われています。

色々な方が集えるような空間づくり、いわゆるサードプレイスとして、このまちづくりにおいて、図書館には本来の書籍を見たり読んだりするような機能だけではない、付加価値のついた機能が今求められているということで、本当に全国的にも今そういったような整備がされつつあります。そういった状況も少しにらみながら、じゃあ京丹後市においてはどうなんだということをぜひ考えていきたいということです。

<委員>

先ほどの意見と重なるところですが、海南市は和歌山市と有田市の間にあって、本当に便利などころに立地しています。ですので、相互協力でおそらく海南市でも近隣市町も貸し借りができるようになっているのではないかと思います。

海南ノビノスを始め、他の施設を見ていると夢が広がって、このような施設があったらどんなにいいかなと思いますが、その施設に行く手だてが、海南市と京丹後市では違うと思います。

ですので、障害を持っておられる方、それから高齢者の人も増えてきていますし、もちろん私もそうなんですが、網野の市民広聴会で切々と言われる方の言葉がとても胸に響いたんですが、高校生が自転車で行けないという人がありました。

たしかに、丹後町から自転車で来るのは大変です。久美浜町からも、高校生がちょっと勉強したいとか、自分の時間を持ちたいなと思っても、気軽に来れる距離ではないです。

バスなどで行こうと思えばもちろんお金もいりますし、親の協力も必要です。親の理解がなかったら、とても行けるような距離ではないということを踏まえて、どんなにいい施設が建っても、一部の人しか利用できない施設ではいけないと思うので、なるべく多くの人、色々な年代の人が利用できるようなアクセスについて、考えてほしいと思います。

私が例えば5年先、6年先になって自分が運転できるだろうかと思いますし、それでも、バスに乗ってでも行ってみたいなと思える施設であってほしいし、そこへのアクセスについても、施設を考えると同時に、私は考えてほしいなと思います。

それともう一つ、本日の会議資料には含まれておりませんが、市民広聴会で配布されていた他施設事例を紹介した参考資料を見ていたのですが、海南ノビノスでも整備事業費が36億8千万円、うち建設費用が28億6千万円となっています。

それから、綾部市のあやテラスですと、令和5年にオープンして、18億4千万円となっています。ここも複合施設で、図書館と子育て支援の施設が入っていて、延べ床面積が3,000㎡となっています。京丹後市の今度の施設は6,000㎡ですので、二倍の大きさとなっています。

やはり経済的なことを考えていかなければいけないという中で、図書館と子育て支援施設ということがメインですので、複合施設とすること自体はとてもいいことだと思いますが、もう少しコンパクトにすることを考えることも必要ではないかと思いました。

<事務局>

公共交通のお話を先ほどからいただいておりますので、今後の考え方について説明させていただきます。

議会や広聴会の中でも一部触れておりますが、鉄道については、新駅ということで、大宮と峰山の駅間に新駅が整備できないかということ、京都丹後鉄道や北近畿タンゴ鉄道と一緒に今検討をし始めているところです。この新しい駅が実現しますと、今回の施設から先ほどあった800m以内に十分入る距離で、駅から歩いて来ていただけるということも可能になるかと思っておりますので、今後こちらの件も同時に進めていきたいと思っています。

バスについては、数年前からマインを中心に放射線状に各町に路線が利用できるような形になっておりまして、各6町から大型商業施設の周辺に行っていただけるような形にはなっています

が、まだ便利が悪いというところがあるかというふうに思いますので、利便性向上に関しては、今後も引き続き改善に努めて参りたいと思っております。

もう一つ、新しい公共交通の形として、公共ライドシェアということに今取り組んでおります。11月からは新たに久美浜町でも公共ライドシェアがスタートしたところです。料金については少し割高にはなりますが、利用拡大についても徐々に進めようとしておりますので、今回の施設の整備の検討と併せまして、公共交通の利便性向上に努めてまいります。

<委員>

想定規模感という資料から施設の内容を見ていて思うことですが、とても普通じゃないですか。豊岡や宮津に行けば既にある屋内のあそび場で、市外から来てお金を落としてもらいたいと思った時に、その要素は何だろうかと思いました。

豊岡の人であれば豊岡で済むし、宮津の人も宮津で済むというなかで、京丹後に施設ができましただけでは人が来ないというのではもったいない。

54億円もかけて、普通だなというのがずっと気になっていました。

今、私は小さなマルシェの運営をしているんですけど、峰山で開くときにも結構豊岡からのお客さんも来てくれるので、もうちょっと何かがあれば、市外からもお金が入ってくるのではないかなということを思いました。

<委員長>

ありがとうございます。先ほどのよりコンパクトにすることも考えられないかというご意見とは逆で、もっと魅力的にすべき、要は個性を発揮してほしいというご意見であったかと思います。

どちらの考え方もあると思います。私からどちらが良いといったことは申し上げられませんが、背伸びせずにはと言うものの、少なくとも地域の皆さんにとってより良い公共サービスが提供できるような、平均的あるいは最低限以上のサービスを提供することによって、今の状況を打開していこうという考え方も、もちろんありますし、一方で、京丹後市として手を打つといいますか、大々的に新しいことにチャレンジをし、それによって市の魅力を高め、それがひいては周辺市町あるいは、それ以外の地域からも注目されるようなまちになっていくというような考え方もあると思います。両方考え方としてはあると思いますし、それは市民の皆様がどうお考えになるかだと思います。

ただ、あの周辺市町でも類似サービスがある中で、おそらくそちらを使った方が便利だという方は、当然近い施設を使うと思いますので、京丹後市の中で中心部にどういう機能が必要なのかということを考えるうえでは、最低限の子育て支援や図書館といった機能はもちろん含まれるとした上で、プラスアルファの機能をどういった形で持たせるのかということについては、当然議論の余地があると思います。

その検討においては、当然、お金や敷地面積も影響してくる部分だろうと思います。

私個人としては、京丹後の子どもたちが、このまちで、こんな施設で育ったということを誇りに思ってもらえるような施設を整備してもらいたいと思っております、やはりそれが大人になった時に、自分たちの子どももそこで育てたいと思ってもらえるような、そういうような環境にな

ると非常に良いのではないかと個人的には思っております。

それがどれぐらいの規模かどうかというのは、やはり数字として表すのは難しいですが、そういうような事業になるように進めていけることが望ましいと思っているところでございます。

他はいかがでしょうか。

<委員>

おそらく皆さんも、先月の9月25日の合同会議の議事録を見られたと思います。本当に皆さんから貴重なご意見をいただいたと思います。

その中で見ておきますと、やはり前に進めていただきたいという意見が多かったように思っております。

委員長には、外からの視点で色々なご意見をいただけてありがたく思っております。

私は、丹後へ嫁いで50年近くになりますが、今から18年前に京丹後市の商工会が発足しまして、女性部長をつとめさせていただいて全国大会に行った時に、本当に京丹後市の知名度が低くて、とても残念に思っておりました。

そんな時に、大宮の商工会の施設の前に着物の形の看板を設置し、そしてまた2年後に、大宮から久美浜の駅に、ミニチュア版の着物の看板を設置させていただきました。これは、第三セクターで2年かかりました。設置するのに大変難しい設置だったと思っております。

そのように、やはり前に進む時というのは色々な障害があります。

でも、やはり前に進まない、と、住んでいる方が幸せになりませんし、都市拠点の複合施設もそうですが、障害のある方もない方も多世代が交流する、そういう場がとても必要だと思っておりますし、若者や子どもたちが未来を求めて過ごせる場所というのはとても大切だと思っております。

今後、インターチェンジがつき、市内外からたくさんの人が集まることが経済効果につながってくると思っておりますので、京丹後市が発展するためには、やはり一歩前に進んでいただかないと発展しないと思っております。

皆さんで頑張っていきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

<委員>

私も、市外からも人が来てもらえるような要素が必要という委員の意見に、私も賛成といいますか、できれば本当は、もっと大きなものが、もっと広いところで、近隣にないものを建てていただきたいというのが正直なところです。しかし、土地がないということと、仮に丹後王国の広い敷地に施設を持っていったとしたらそれができるのかといえば、ちょっと首をかしげなくてはならないのかなと思います。

今やろうとしている都市拠点公共施設ができることによって、近隣の民間であったり、色々なものが動いてくるのではないかなと思います。

私としては、本当はもっと予算があれば思い切ってやっていただきたいぐらいの気持ちでおります。

商工会の女性部であったり、それからおかみさん会という団体にも所属しております。その中で、平成16年に京丹後市として一つになるということで、いち早く色々な地域の良さをみんなで

共有しようということですので活動しております。

女性は生み育てるものとして、ここはもう男性、女性ということではないかもしれませんが、全く違うところから嫁いできて、その地域で子どもを産んで、育てて、地域で頑張ってやっていくという想いはあります。男女の性差ということ言うべきではないかもしれませんが、これは女性ならではの視点かなと思います。そういった意味では、未来に繋いでいきたいという想いは、女性の方がもしかしたら強いのかなということも思います。

それから、都市拠点に複合施設ができることについて、観光に関するお役目もいただいておりますが、その視点から言えば、拠点ができるうえで、アクセスにより各エリアをきちんと結んでいくということは大事だと思います。

各町の良さはたくさんあります。観光の取組をしていますので、とにかく海側、山側というふうに言われますが、丹後といえばやはりカニというところで、我が家は窓を開けてすぐ海は見えますが、私は京丹後市の誇りとして海側のアピールもしますし、先日の広聴会にも久美浜大好きですという想いを言いたくて行きましたが、その想いも言えずじまいで帰ってきました。

久美浜会場まで行くのも電車で行って電車で帰ってきました。公共交通をあえて使う努力をしています。これまでも乗って残そう公共交通を合言葉にしていますけれど、地域の者一人一人が公共交通を利用する意識を持たなければ維持することもできないだろうし、おそらく京丹後市だけではなく京都府の税金も使ってなんとか維持しているのが現状だと思います。やはりそういう想いで、動いていかななくてはいけないと思っています。

その上で、公共交通をきちんと結んで、今は公共ライドシェアであったり、MaaS であったり、色々な取組を進めておられますが、観光のお客様に関しては、弥栄町で降りて網野で乗りたくてもそこは結束していないですとか、色々な問題がおかみさん会の中でも出てきます。そういったことを京丹後市の中でクリアしながら、一つずつ問題点を解決しようと思ってやっています。

論点3のところでも前に進めましようと言いましたが、事業の優先順位ということで、身近な色々なものを直してくださいというご意見もありますが、そこはきちんと行政の方が地域と向き合ってもらって、解決していく必要があることもあろうかと思いますが、ある意味スクラップビルドと言いますか、それはやむを得ないことだとも思います。

夢物語ではないので、そこははっきりと、このままではどうなるかというところを真剣に皆さんにご理解いただき、我が、我がだけではなくて、将来のことを考えていかななくてはいけないと思いますし、メリハリのある部分で、やはり投資といいますか、この事業は前に進めていかななくてはいけないと思います。

この間、DMO の取締役会で京都府副知事とお話しする機会がありましたが、京都市と京都府で比べた時に、京都市の建物がすごく良くなっていて、交通の結束であったり、地域との便利が良くなって、それですごく活気が生まれているとおっしゃっておられました。

使える施設をもう一回使うということ、リフォームして使うということは、またどこかでやり直すかなくてはならないようなことになりまして、新しいものができるということは、やはり新しいエネルギーが生まれてきます。

そういうことも必要だと思いますし、この間の広聴会では一つも出てきませんでしたが、私は孫が6人おりますが、京丹後市の子育て支援の部分に関して、こども部は本当に一生懸命やってい

ただいてるし、ソフト面も頑張っておられると思っています。子育て世代の方からの意見もありましたが、それには真摯に向き合っていていただいています。ただ、今回、こども部がどこに入ったらいいのかということが出てきていない。

心ない方は、こども部は廃校に入ればいいんじゃないかというようなことを言われるような方もあるみたいですが、子育てに問題を抱える人が自らこども部を訪ねていくことは難しいです。子育てに悩みがある人にとっては、何気なく足を運べる遊びの場所や図書館といった場所にこども部がいることに大きな意義があると思うんです。

それが切れ目のない子育て支援に繋がるとも思うし、ちょっとした問題を見つける場面でもあるので、ここは女性ならではの視点かもしれませんが、そこにきちんと目をやって、複合施設の中の図書館ばかりではないですが、やはり、おじいちゃん、おばあちゃんも来られてというところと、それから防災の観点でもですし、障害者の部分でも必要性を感じるということです。

先日テレビ番組で、今や10人に1人は何らかの障害を抱えているということで、それに関わる家族も含めればもっと数は増えます。そうすると、例えば車椅子が入るトイレはありますが、老人もそうですが、介助用のベッドが整備されているトイレというのはあまりないんだそうです。

ですので、インクルーシブと言いますが、今の時点で障害のある方だけではなく、年をとるということは、少しずつ身体的に不自由なことも増えていくわけですから、その視点もきっちりとって、私はそういうところにも向き合って、そういう施設も作ってほしいですし、確かに盲導犬も連れてでも、誰が誰でも来れるような施設というところであるべきだと思いますし、これはやらなくちゃいけないことだと思います。ここで足踏みするようなことでは、だめだと思います。

京丹後市もこのままどうなってしまうのかなという絶望感の方が、若い人達としては感じると思うので、そういう部分も含めて検討していただいて、中について検討できることは今からだと思うので、まずはやりましょうというところの合意を形成していただいて、そこから色々な意見を聞いて、より良いものを作るというところにたどり着いていただきたいと思います。

<委員長>

非常に貴重なご意見をいくつもいただきました。

子育て世代、あるいは図書館を普段利用されている方々といった特定の層が使うための施設ではないかと皆さん考えがちだと思いますが、実は本当に色々な層の方が使えるチャンスや可能性ももちろんありますし、そうなるように努めなければいけないと思っています。

数年前にニュージーランドのクライストチャーチという都市を視察したことがございまして、そこは地震による被害を受けて、今現在も復興中です。その中心部には大きな大聖堂がありまして、復興中ですが、すぐそばに大きな公共施設が建っています。それは図書館です。

その図書館は、1階フロアは子どもたちとお年寄りが集えるようなスペースがあり、知らないおじいちゃんと知らない子どもがチェスで遊べる空間があります。知らない子どもたち同士がパズルをするような空間もあります。

何気ない空間なんですけど、それがまさに復興の象徴になるような、まちをどう自分たちで作っていくのかという、非常にシンボリックなスペースだなと思いました。

そこにはもちろんカフェもありますし、人々が集えるような空間もあります。それから2階に

は子どもたちがキャッキヤと遊べるような空間もありますし、レゴがものすごい広がっていて、自由に遊べるというような空間もあります。

それぞれのスペースに関して、それぞれの機能をおそらく熟知して、考えられて設計されていると思いますが、普通に来ても普通に遊べる、楽しめる、自分で考えてこんなことをしたら面白いのではないかと遊べる。それが子どもだけではなく、親もお年寄りも楽しめる、それから高校生や大学生がアイデアを出し合ったり、ディスカッションできるようなスペースがいくつもある、そういったような、みんながそれぞれ思い思いの時間を享受し過ごせるような、そういう空間づくりというものが町中にあるということが重要だと思っています。

京丹後市においても、このように、誰もが自然に集い、居場所を見つけられる空間がまちの中にあることは、非常に重要だと思います。京丹後市においても、さまざまな機能を併せ持つ複合施設を整備する方向にありますが、高齢者や子どもたち、働く世代を含め、ふと立ち寄ってみようとか、少し時間ができたから本を一冊読んでみよう、といった気持ちで利用できる空間になるとよいのではないのでしょうか。

公共交通の分野では、公共交通がなくなると生活に大きな支障が出るという認識のもと、色々な検討をしています。私も公共交通の分野でも色々と関わらせていただいています、そういった中で一つ重要なキーワードがありまして、それはクロスセクター効果です。

仮にバスがなくなった場合、高齢者が人の集まる場所へ行きづらくなったり、障害のある方がこれまで自力で移動できていたのに難しくなったり、小中学生の通学に保護者の送迎が必要になったりと、さまざまな問題が連鎖的に生じます。これは、バスという一つのサービスが、実は複数の分野や機能を同時に支えていることを意味しています。

都市拠点公共施設においても、そのように様々な機能を担う存在になり得るのではないかと考えておりまして、それはひいては、京丹後市の様々な部署の様々な取り組みに貢献してくれるようなことに繋がるのではないかと思います。

そういったことも期待しながら、この公共施設のあり方というものを考えていただければよいのかなと思います。

単なる図書館、単なる子育て支援施設だけではなく、もっと期待してもよいのではないかと考えていますし、そういうことにどれだけのお金がかけられるかというところは、もちろん議論の余地がありますが、京丹後市の未来を明るく考えても良いのではないかと思います。

続きまして、議題の4に進ませていただきます。

都市拠点公共施設整備の望ましいあり方についてということで、事務局の方からご説明をお願いいたします。

<事務局>

参考資料1について説明させていただきます。

協議を進めていただく上での参考資料として作成いたしました、参考資料1について、ご説明させていただきます。

～参考資料1に基づき事務局から説明～

<委員長>

事務局からの説明内容につきまして、ご質問、ご意見等ございますでしょうか。

既存施設の利活用に関するような想定ですとか、あるいは都市拠点エリア内の土地の諸条件など、色々と参考情報をご提供いただきました。

先ほどの議論の継続にはなるかと思いますが、ただいまご説明いただいた内容も含めまして、ご意見、ご質問がありましたらお話しいただければと思います。いかがでしょうか。

最後の資料の中で、既存施設活用のケース想定ということで、もちろん想定ですので、実際こうなるかどうかは正直分かりませんが、あくまで個人的な所感としましては、おおむね、新しいものを建てた方が結果としてはお得なのではないかと思うところですし、既存施設の活用に関しては部分最適であって、長期的な持続可能性という観点から考えると、少し欠く部分もあるのではないかというふうに感じたというところでございます。

もちろん、既存施設を活用すること自体は非常に重要だと思いますが、それでも、今回のこの公共施設整備で検討しているような役割や機能を十分代替できるかという視点で考えたときには、少し厳しいところがあるのではないかと思いますし、加えて、相乗効果も少し見えないかなとは思っています。

ご意見、ご質問ございますでしょうか。

<委員>

論点などで出ている様々な意見に対しての、方向性の検討というのは、どの辺まで進んでいるのでしょうか。

審議会等の色々な意見も踏まえてだと思いますが、論点に対して、市民の声を納得させるための施策と言いますか、既にある程度検討が進んでいるのか、事務局側としてはどこまで進んでいるのでしょうか。

<事務局>

論点については、議会での審議内容等を事務局の方で論点整理したのですが、その上で、市民広聴会等でもご意見を伺い、また、本検討会議及び関連する審議会等も開催いただきながら、改めて議論をさせていただこうという段階でございます。

一旦、論点の方向性というものは整理させていただいておりますが、結論については、今後ご意見をお伺いさせていただきながら取りまとめてまいりたいと考えております。

<委員>

論点に対する市民への説明会といったようなことは、同じようにエリア毎に実施される予定なのではないでしょうか。

<事務局>

この度、市民広聴会ということで、各町でご意見をお伺いさせていただきましたが、現時点ではその結論をまとめたものを各町の方でご報告するというところまでは検討はしていないところです。

<委員>

先日、近畿ブロックのPTA大会に3人で行かせてもらって、そこでPTAで出た意見としてお伝えしたいんですが、昼から講演会がありまして、その講演がとても素敵で、吉田田タカシさんという不登校支援や新しい形のこども食堂に取り組んでいらっしゃるって、天理市と協定を結んでまちづくりにも関わっておられるそうです。

外のお庭を市民みんなで整えて、ちょっとずつその施設を作り上げていくってことをしていきたいですって話があって、ここもそうになったら予算が減る可能性もあるし、みんなで作っていくという方が、みんなが納得しやすいのかなというのもあるって、だからこのまま進むのは私としてはちょっと反対で、もっとみんなが関わってまちづくりを考えていけるような形で進めていけるのであれば賛成はしたいなと思うんですけど、このまま普通の大きいものが建ちますということであれば、私は素直に反対と言わせていただきたいと思います。

<委員長>

ありがとうございます。おそらく頂戴したご意見は皆さん共通だと思います。

単なる箱物ができるということであれば、それに対しては、どう使えるものかわからないので使えませんということになると思いますので、無駄な税金ですよということ、それに対しては反対というのはもちろん皆さんそうだと思います。

私が是非申し上げておきたいのは、これは公共交通の議論でよくあることですが、乗らないのにバスは走ってほしい、近くにバス停も欲しい、でも、実際に通したら乗らないということは結構あります。色々と情報交換するなかで、アンケートを実施する中では、近くにバス停があれば乗ると回答していても、実際に整備したら乗らないというケースが、実は全国的に多いということがわかっています。

これは、悪い言い方をするとないものねだり、あるいは、学術的に言いますと、利用可能性、オプションを残しておきたいという考え方になります。

この問題は、実際には顕在化されないもので、結局のところみんな使わず、やはり廃止という結論になって、一回取り組んだのに利用されなかったということなので、その後リバイバルはできないということになります。

今回の公共施設もそうですが、是非皆さんが使い倒す、あるいは、こういうことができるのではないかとことをどんどん提案して、この公共施設をもっとアップデートしていくような、そういう考え方のもとに整備をしていくということが大事だろうと思っています。

与えられたものをどう使うかということも、もちろん大事ですが、やはり市民が関わらないと施設も育ちませんし、あるいは、もっと使うためには公共交通を通した方がいいというようなご意見が出たら、それを実際にやってみて、実際に使っていただけたとすれば、業者が増えて、もっとその施設のご利用が増えるですとか、そういうふうに見える形で、どうすればより多くの市民

が使えるのか、あるいは、どういう使い方が楽しいのかといったことにチャレンジしたり、まちづくりとして関わっていくことが大事だろうと思います。

そういうことができる施設を、これから皆さん考えて整備していきたいのではないかとというふうに、私は思っています。

単なる箱物であるなら、私も同様に反対です。それなりの金額をかけて、京丹後市の未来を作るための施設だというふうに思っただければと思いますし、他人任せでは決していけないと思います。

私は整備することに賛成なので、それなりに責任を持って何かしらの形で関わり続けますし、もし何か役割をいただけるなら、利用促進のためのアイデアももちろん出しますが、やはりいかに使ってもらえるかということは、みんなが考えるということが大事だということのように思っております。

他いかがでしょうか。自由に意見は言ってくださいね。

これは違うのではないかとという意見も全然いいですよ。この場合は会議体ですので、色々なご意見をやはり集めたいと思いますし、それが京丹後市にとってプラスになるようにしたいと思いますので、ぜひご意見いただければと思います。

<委員>

この検討会議に参加させていただいて、海南ノビノスにも視察に行かせてもらって、本当に視野が広がって、当初の場所の計画であれば、市民ホールがあったりだとか、子どもたちが外で遊べるような広場があったりだとか、屋内で遊べる場所であったりだとか、本当に夢を持っていろいろなお話をさせていただいて、場所が変更になったという流れで一部縮小されて、今回の計画が出ています。

皆さんもおっしゃっていますが、その中で、どうしたらより良いものになるのかということを前向きに考えて、そして、子どもたちや若者が誇りを持てるような、京丹後市にはこんな素敵なものがあるんだと誇りを持てるような、自慢できるようなものができるように考えていきたいというふうに思います。

人口の動向については当然わかっていることなのですが、私もこども園で働いてますが、年々ヒシヒシと子供たちが減っているなということを身に実をもって感じていて、このままでは本当にどうなるんだろうという危機感も持っています。

このままなかったことにするのではなくて、その中でより魅力的な施設を作っていくために、皆さんで知恵を集めて前へ進んでいけるようにしたいなと強く思います。

<委員長>

そのような仕組みも大事かなと思っています。

施設を整備すること自体についても非常に重要な論点ではありますが、どういうふうにみんなに関われるのかですとか、あるいは整備後のマネジメントというところも、この検討会議内で議論することは時間的にも難しいですが、非常に重要なことであると思っています。

例えば、茨木市におにクルという複合施設がありまして、非常に多くの方々のご利用がありま

す。私もできたてのときに視察に行かせていただきましたが、図書機能や子育て支援機能、子どもたちが遊べる公園、ホールなど、非常に充実した複合施設ですが、そこに、それなりに広い公園が隣接しているんですが、その公園の使い方は、使う側が考えるということになっています。

つまり、例えば火を使っちゃはいけません、ボール遊びしてはいけませんというような、禁止ばかりのルールではなく、あんなこんなこともこんなこともできますというような視点で公園をさせる、要は自ら考えて使うようなルールが定められています。

そういうことも非常に重要で、その施設をどういうふうにするか、あるいは、いかに利用者が積極的に使えるかというようなことについて考えることも非常に重要だと思いますので、現時点ではまだ、建てるかどうか、土地をどうするかという議論なので、なかなかそこまで考えは至りませんが、施設の使い方やマネジメントの点についても、今後大事になってくるかと思っています。

他いかがでしょうか。

何か懸念点や、こういう論点もあるのではないかというご意見でも結構です。

では、お時間にもなりましたので、本日はこの程度に留め、また次回の会議を予定しているということでございますので、積極的なご意見をいただければと思います。

事務局に進行をお返しします。

<事務局>

ありがとうございました。

次回の日時につきましては、1月中をめどに調整をさせていただきたいというふうに考えておりますので、引き続き御協力をよろしくお願いいたします。

それでは最後に、藤井副委員長の方からご挨拶をよろしくお願いいたします。

<副委員長>

皆様、どうもお疲れ様でした。

本日は、都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議の第2回ということで、お忙しいなか、各分野から委員の皆様にはご出席いただきまして、心よりお礼申し上げます。

都市拠点公共施設整備事業については、関連予算が議会で否決となり、改めて市民周知、合意形成を図りながら事業の望ましいあり方を検討していくという中で、ある意味で原点に立ち返って事業の意義についての意見交換をすることが、本日の検討会議ではできたのではないかと思います。

本事業については、個々の施設機能に着目されがちではありますが、まずは人口減少、少子高齢化という状況下において、いかに都市拠点形成を図り、京丹後市の未来にとってよりよい投資とすることが政策的に重要なポイントですので、そこを押さえたうえで、施設の投資効果、付加価値を高めていくイメージを具体化していくことが、事業の望ましいあり方検討を行う上では大切になってくると考えています。

本検討会議は次回で最終ということで、大変短い期間ではございますが、検討協議依頼に基づく協議結果の報告書を1月中を目標にとりまとめていく必要があるということです。委員の皆様

様には引き続きお力添え賜ればと存じます。どうぞよろしくお願いいたします。

京丹後市にとって意義深い事業となることをおおいに期待し、閉会の挨拶とさせていただきます。本日は皆様、お疲れ様でした。

<事務局>

藤井副委員長ありがとうございました。

藤井委員長からもございましたように、都市拠点公共施設の望ましいあり方につきまして、委員長とも相談させていただきながら、まずは素案を作成し、検討を進めたいというふうに考えてございますので、どうぞよろしくお願いいたします。

それでは、以上をもちまして、第2回都市拠点公共施設整備基本計画等検討会議を終了させていただきます。ありがとうございました。